

「データに基づく政策」
市の支出を “しごと” づくりに



2010年3月福岡市議会

補足質問 2010. 3. 8

民主・市民クラブ
玉井輝大

目次

1. 背景（主旨）・・・1

- 安心をもたらそうな、成長している仕事を一つ一つ育てていく・・・1
- 毎年繰り返す持続性を求めて・・・3
- 現場からのしごと場づくりは縦割りの打破から・・・3

2. 現状について・・・3

■野芥駅周辺のまちづくり・・・3

- 早良区地域交流センターの今年度・・・3
- 野芥周辺の「地域拠点」整備、地下鉄「沿線の都市（まち）づくり」に関しての実態と今後・・・3

■特色のある港づくり・・・4

- 旅客船都市化・・・4
- 上海ローロー船の機能強化・・・5

■環境を重視した森林づくりについて・・・5

■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり・・・6

- 農商工連携事業・・・6
- 商店街振興・・・6
- データとマーケティングをつかった個別コンサルティング・・・7
- ベンチマーク協議会・・・8

3. 提案します・・・9

■野芥駅周辺のまちづくり・・・9

- 早良区地域交流センターの今後の展開・・・9
- 野芥周辺の地域拠点整備、地下鉄沿線の都市（まち）づくりに関しての実態と今後・・・9

■特色のある港づくり・・・10

- 旅客船都市化・・・10
- 上海ローロー船の機能強化：上海スーパーエクスプレスの定期便化・・・10

■環境を重視した森林づくりについて・・・10

■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり・・・11

- 農商工連携事業・・・11
- 商店街振興：特色のある商店街づくりへ企画・支援策を・・・11
- データとマーケティングをつかった個別コンサルティング・・・12
- ベンチマーク協議会・・・12

4. これからを展望・・・13

■野芥駅周辺のまちづくり・・・13

■特色のある港づくり・・・13

■環境を重視した森林づくりについて・・・13

■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり・・・13

- 知の経済地域・・・14
- 福岡ならでは・・・14

※この報告書は、玉井の質問原稿と当局回答概要から作成しております。正式な会議録は、議会事務職のホームページ< <http://asp.db-search.com/fukuoka-c/dsweb.cgi/> >でご確認ください。

1. 背景（主旨）

（1 問目）

お元気サンです！ 民主・市民クラブを代表し補足質問します。今回は、「野芥駅周辺のまちづくり」、「特色のある港づくり」、「環境を重視した森林づくり」、「経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり」、以上、4点を質問いたします。

1. 背景

●安心をもたらすような、成長している仕事を一つ一つ育てていく

私たちはリーマンショックを経験し、今までの経済政策では安心できません。いま求められているのは、持続性のある経済への転換です。しかし、その具体的ビジョンは、いまだ見いだされていません。

いまなすべき経済政策は、現状に立脚し、固有の強みを活かし、新しい動きをとらえ、具体的な“しごと育成”をすること。成果目標を明確にしながら進めていくことです。成長している仕事を一つ一つ、一步一步支援していく。福岡市での企業活動が競争力をもつように、「インフラと制度」の再整備を行い、雇用があまり伸びていない仕事から、雇用をいま増やしている仕事へ徐々に産業構造を変えていくことです。

●毎年繰り返す持続性を求めて

少し飛びます。「インフラと制度」に関して新たなイメージを呼び起こされる、内山節（たかし）さんの「日本人はなぜキツネにだまされなくなったか」の中の文章を紹介いたします。「この村には昭和20年代頃まで『山上がり』という仕組みがあった。」「いよいよ生活が立ちいかなくなったと感じたとき、村人の中には『山上がり』を宣言する者がいた。」「いくつかの取り決めがあった。そのひとつは『山上がり』を宣言した者は誰の山に入って暮らしてもよい、というものであった。つまり森の所有権を無視してよいということである。第二は森での生活に必要な木は、誰の山から切ってもよいというもので、ここでも所有権を無視することが許される。第三は同じ集落に暮らす者や親戚の者たちは、『山上がり』を宣言した者に対して、十分な味噌を持たせなければならないという取り決めであった。『山上がり』は生活が立ちいかなくなった人々に対して開かれている、共同体の救済の仕組みだったのである。」今の失業者が増えている現状に重ね合わせると、とても頼りがいがある自然であり、社会制度ではないでしょうか。「山」が生活の安心を支える「インフラ」であり、「山上がり」が地域でつくってきた「制度」だった。





続けます。「『山上がり』を宣言した家族は味噌を持って山に入る。都合の良い場所を見つけて小屋をつくり、マキなどをそろえる。食料としてはかつての上野村の森には栗の木がいくらでもあった。一年分のデンプンを用意するくらいはわけなかったのである。栃の木も多かったからそれも食料にされたであろう。アクを抜けば（中略）ドングリの実も食料になる。当時の山は炭焼きが木を切り、焼き畑も営まれていたから、山菜も豊富だった。茸（キノコ）も良く知っている者なら五月から十一月まで絶えることはない。山の沢ではイワナがいくらでもとれたし、ワナを仕掛ければ動物もとれた。かつての山は実に豊だったのである。」「いまでも上野村の老人のなかには、『何、困ったら山に上がれば一年ぐらいは楽に暮らせるよ』という人がいる。」とのことです。

お金を稼ぐ“額”だけで人の価値を計ろうとする現代、私はこの50年前まであった「山上がり」を昔話しだと片づけたくありません。山が豊だったら川が豊か、川が豊かだったら田園が豊か、田園が豊かだったら町が豊か、町が豊かだったら地域が美しくなる。地域が美しければ水は汚れずに海に入り、海が豊かになる。蒸発して、水が天に上がり、そして、山に雨が降り、植物が動物が水で命をぐくまれ、森に棲み着き山が一層豊かになる。この循環を再現する。お金なしでも、山に入れば生きていける状態が復原できないでしょうか。このような状態に山になることは、安心できる永続性のある「インフラ」を市民に準備することになるのです。

「山上がり」できる環境は、国土の7割が山であり、雨が大量に降る日本だから持つことができた。福岡市の市域も1/3は山林なのです。山のために林業が再生されなければならぬ。そして、人が自然と寄り添いながら暮らすための道しるべ、啓蟄（けいちつ）春分などが生きる時間の流れは、安心できる、永続性のある“心地よい時間”の流れではないでしょうか？ 飛躍を恐れずに言うと、私たちの永続性のある経済とは、長い間つちかわれてきた、「毎年繰り返す」季節に寄り添った循環する経済なのです。



●現場からのしごと場づくりは縦割りの打破から

話題を仕事に戻します。広い意味での経済には、仕事の現場がある農林水産業も入ります。NPO/NGOも入ります。今の行政の中では、誰も経済を原材料の生産から、加工、流通、そして、サービス、金融まで見ていません。これは世界中同じではないでしょうか。日本でも農水省、経産省、金融庁と分かれています。さらに、経済で重要な労働市場への人材育成も、文科省、厚労省、経産省などに分断されています。すべての仕事に分業、分断で発展してきた近代の負の遺産だと考えます。この現状を変えなければならない。そして、いま仕事のあり方を再構築できるのは、その現場に近い自治体だけです。

福岡市ではこの分断を無くし、縦割りの無責任体制を克服する。継続する強い意志を持ち、目標達成の責任を明確にした経済政策執行体制をつくりあげる。福岡市GDPの1/4に近い、全会計支出が、実際の経済へ与える効果を意識し、行政が関わるすべての事業を、民間に「仕事をつくっていく」という視点から、執行しなければならないと思います。

2. 現状について

■野芥駅周辺のまちづくり

- 野芥駅周辺のまちづくりについてのお尋ねでございますが、早良区野芥地区の地域交流センター候補地につきましては、交通利便性やマスタープランの位置づけを踏まえると、やはり野芥口交差点付近が最適との考えから、まずは野芥口交差点付近の複数の候補地に絞って、詳細な調査を行い、熱意を持って地権者と交渉を進めてまいりました。
- 調査につきましては、候補地に地域交流センターの整備が可能であるのか、具体的な施設プランを作成の上、建築や都市計画の関係法令における検証などを行いました。
- これらの調査結果を踏まえて、整備用地の確保に向けて、粘り強く交渉を進めてまいりましたが、現時点では合意は得られておらず、用地の確定までには至っておりません。
- 野芥地区は、「新基本計画」では地域拠点として、また「七隈線沿線まちづくり」では開発推進地区と位置づけている。

●早良区地域交流センターの今年度

まず野芥駅周辺のまちづくりから質問します。

地域交流センターを4区に整備すると計画し、3カ所目の西区も今年の7月に開館するとのことです。最後に残った早良区の地域交流センターは、まだ、場所の目処もついていません。野芥駅周辺の将来を考えたとき、無視できない地域交流センター、今年度は野芥口交差点付近をはじめ、野芥地区エリアで幅広く調査し、敷地を固めて計画づくりを行なうとのことでした。今年度、どのように候補地を絞り込み、どのような調査を行なったのか、現在どのような状況なのか、教えてください。

●野芥周辺の「地域拠点」整備、地下鉄「沿線の都市（まち）づくり」に関しての実態と今後。

また、野芥駅周辺では、地下鉄乗り換えのための駐車場も、駐輪場も、不足しています。マイカーでの送迎によって車線が遮られ、混雑を起こしています。地下鉄野芥駅周辺は、基本計画及び七隈線沿線まちづくりにおいて、どう位置づけされているのか、教えてください。

- ・野芥口交差点の北東街区については、開発計画の機会をとらえ、地区計画を定めた上で、周辺の住宅地にも配慮しながら、一定の高度利用を図り、地下鉄出入口とバス停が一体となった公開空地を確保し、交通結節機能の強化を図った。
- ・北西街区、南西街区については、複合施設整備や共同化等の取り組みについて、コンサルタントの派遣をするとともに、地権者と鋭意協議を行ってきた。
- ・野芥駅がある野芥口交差点は、交通の要衝であり、その特性を活かし、地域拠点にふさわしい機能集積が必要と考えている。
- ・拠点機能整備のためには、面的整備や建物共同化など様々な手法がある。
- ・地域の課題解決や特性を活かしたまちづくりを進めるには、地域の方々が主体的に取り組むとともに、行政が支援していくことが重要である。
- ・整備後のイメージとしては、地域の特性を活かした賑わいとゆとりあるまちが形成されると考えている。

また、野芥口交差点北東角は、地区計画による整備が行われていますが、残りの角については、何も手つかずです。交差点付近のまちづくりについて、これまでどのように取り組んできたのか、教えてください。

地域交流センターありなしに関わらず、野芥駅周辺をどのような形でまちづくりを進めようとしているのか、整備主体、整備手法、整備後の形態を教えてください。

■特色のある港づくり

●旅客船都市化

特色のある港づくりについてです。

福岡市は海から出入りする人が日本でもっとも多い都市（まち）です。これを成長する東アジアの中で最も人が出入りする港に育て、港町福岡の都市イメージを高めていく。博多港の客船実態をデータで教えてください。

- ・博多港での外国航路乗降人員数は1990年に約1万1千人、95年約1万6千人、2000年には約40万人、05年には約68万人、07年には約84万4千人、2008年には約84万5千人を記録。その伸び率は1990年を100とした場合、2008年で約74倍。全国シェアも90年2.6%から2007年49.4%とアップ。
- ・国際的なシェアは、クルーズ人口1666万人(2007年)とした場合、米国カナダが最大で69%(1165万人)、続いて欧州24%(390万人)、アジア4%(60万人)、オセアニア2%(30万人)、日本1%(18万人)。
- ・2010年の外国クルーズ客船の博多港寄港予定は68回であり、2008年25回、2009年26回と増加傾向にある。大手クルーズ船社が数年前から中国の主要港を発着する東アジアクルーズ市場創出を目指し、中国に相次いで進出してきた。これに併せて博多港としても海外のクルーズコンベンション参加や船会社訪問を通じて積極的な誘致活動を行い、買い物や観光がしやすいなどの特徴から福岡が寄港地として選定されたことが寄港数増加の要因。

また、今年はクルーズ船がたくさん来ると聞いています。今年の入港予定はどの様になっているか？この増加の原因は何だと考えているのか、教えてください。



にっぽん丸

博多港 HP より

URL:<http://www.port-of-hakata.or.jp/guide/cruise/kikou.html>

- ・上海 RORO 船の輸出入の実績。他港の同様のサービスとの比較。博多港からの荷の広がりの実態（入りと出の実績）。
- ・博多港における国際 RORO 船全体の取扱量は平成 18 年 105 万トン、平成 19 年 119 万トン、平成 20 年 121 万トンであり、そのうち上海高速 RORO 船については着実に伸びている。同様のサービスでは下関港があり、その国際 RORO 船全体の取扱量は平成 18 年 50 万トン、平成 19 年 49 万トン、平成 20 年 48 万トン。このうち蘇州向け的高速 RORO 船の最近の動きは昨年 10 月から週 2 便に増便したため、同 12 月の取扱個数は従来比 7 割増となっていると聞く。
- ・上海から博多港への輸入として主な貨物は、白物家電、電子機器、アパレル、家具、自動車部品など。また、博多港からの輸出として主な貨物は、家電製品・自動車部品・半導体・液晶パネル・生鮮果実など。

●上海ローロー船の機能強化

博多港で取り扱うコンテナで注目したいのは、他の都市ではまねできない、上海と博多を 26 時間で結ぶローロー船です。その輸出入の実績と伸びを、下関港の RORO 船と比較して、教えてください。また、博多港、および、上海港からの荷の広がりの実態を入りと出で、教えてください。



HP:JR 貨物

URL:<http://www.jrfreight.co.jp/transport/container/international/sse.html>

■環境を重視した森林づくりについて

- Q1 福岡市内の森林の所有別面積は？
- 全体 11,085ha
- ・民有林 8,488ha (全体の76%)
 - 人工林 5,368ha (全体の48%)
 - (杉 2,353ha、桧 2,664ha)
 - a、松ほか 351ha
 - 天然林や竹林など 3,120ha
 - ・国有林 2,597ha
- Q2 管理されていない森林面積と荒廃森林面積は？
- 民有林でかつ、杉や桧の人工林 5,017haのうち
- ・15年以上未施業の森林面積 3,130ha (5017haの62%)
 - そのうち既に荒廃している森林面積 1,500ha (5017haの29%)
 - (残りの約1,900ha (5017haの37%) は、公的に管理したり、所有者が適切に管理)
- Q3 木材価格の動向は？
- 昭和55年のピーク時と比較し、
- ・丸太価格 約1/3
 - ・製材品価格 約1/2
- Q4 林家の林業経営収支は？
- 農林水産省林業経営統計調査 20ha以上の林家 (H20N 約88ha)
- 林業粗収益 178万4千円
- 林業経営費 168万1千円
- 林業所得(差引) 10万3千円
- Q5 林業従事者数は？
- 32人 (H17Nセンサス=150日以上に従事者)

環境を重視した森林づくりについてです。

森林は、水源を涵養し、土砂の流出を防止し、二酸化炭素を吸収するなど、環境保全に多大な役割を果たしています。川の水源地を極めようと、森へ入ったとき、薄暗く木が密集し、草もなく、倒木が目につくなど、その荒れ方に驚いたことがあります。現状の森林の管理はどの様になっているのか？ 福岡市内の森林の所有別・樹種別面積、管理されていない森林面積と荒廃している森林の面積を教えてください。

また、管理されていない原因は、木材価格が下落し、林業として成り立たないからだ、と聞きますが、木材価格の動向、林業を営んでいる家庭の林業経営収入、林業従事者数を教えてください。



■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり

(答弁骨子)

○農畜産物・水産物卸売業

事業所数 (H18) 4,69 (市内卸売業の5.8%)

従業者数 (H18) 6,528人 (市内卸売業の6.7%)

年間販売額 (H19) 9,202億円 (市内卸売業の7.7%)

○飲食料品小売業

事業所数 (H18) 4,556 (市内小売業の32.6%)

従業者数 (H18) 45,623人 (市内小売業の40.7%)

年間販売額 (H19) 5,770億円 (市内小売業の30.3%)

○飲食業

事業所数 (H18) 10,344 (市内全産業の15.0%)

従業者数 (H18) 70,344人 (市内全産業の9.1%)

収入額 (H16) 2,533億円 (市内サービス業の9.0%)

※収入額は飲食店のうち、一般飲食店のみの集計

※参考 (市全体)

卸売業

事業所数 (H18) 8,156

従業者数 (H18) 96,749人

年間販売額 (H19) 120,053億円

小売業

事業所数 (H18) 13,957

従業者数 (H18) 112,196人

年間販売額 (H19) 19,072億円

(農林水産局)

○平成19年度から、福岡市の特産品として開発に取り組む団体やグループに対して、事業費の3分の1以下で333千円を限度に助成している。

○これまで、次の10品について助成している。

平成19年度 3品 (がめ煮コメ粉パン、主基の里漬け、和菓子コンクール (ねぎおはぎ等))

平成20年度 3品 (「かしわご飯のもと」レトルトパック、脇山産紅茶、市内産鶏の炭火焼)

平成21年度 4品 (市内産米粉パン、すせんじ健康エコオイルきれいに菜っ種、あまおうリキュール、金武ワイン)

○開発をした特産品については、地元の直売所や関連の食料販売店、イベント等で販売、普及がなされている。

・実態調査の結果 (大型店の影響含む)

162団体、約4600名の会員、地域密着型の商店街が8割

商圏内に大型店がある商店街が7割、その内3割の大型店は商店街会員

大型店の出店・退店のいずれの場合も、売上減少

課題は、商店街内の合意形成の困難性・役員やイベント時の担い手不足等

●農商工連携事業

次に経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくりについてです。

まず、農商工連携についてです。九州の流通中心、福岡市にはすでに第一次産業関連の仕事場がたくさん集積しています。その事業所数、従業者数、売上高の状況と卸売業、小売業に占める割合を教えてください。

また、飲食業に関しても、福岡市は新鮮な農林水産物を使った料理で人気です。飲食業の事業所数、従業者数、販売額と全産業に占める割合を教えてください。



写真提供：福岡市

農商工連携事業として、市内産農産物の加工品、における特産品開発支援に取り組んでいますが、その現状はどうなっているのか、教えてください。



がめ煮 写真提供：福岡市

●商店街振興

商店街振興についてです。今年度、市内商店街の実態調査を実施しています。その結果からどのような問題が明らかとなり、商店街にとって何が重要な課題と考えられるのか、教えてください。

- ・ 22年度新規事業
「商店街と地域・顧客との関係強化事業」
消費者のニーズや地域住民の要望等を市が調査（アンケート調査委託）
調査結果を商店街に提供
地域住民には、商店街の活動等をPR

来年度新たに「商店街と地域・顧客との関係強化事業」を実施されますが、何故この事業を実施するのか、今年度の実態調査とどのような関係があるのか、どのような事業なのか、教えてください。

●データとマーケティングをつかった個別コンサルティング

昨年視察で訪れたリトルトン市の「エコノミックガーデニング政策～市域内にある企業を、市場データをつかってマーケティングを主眼に個別に支援する政策」は大都市シカゴも関心を示しているとのことでした。福岡でも適用できる政策です。具体的には、リトルトンの小さなチョコレート屋さんが、「チョコレートを使った健康療法士」としてチョコレートを全米に売っていく。データに基づきマーケットを見据えた指導、特定の仕事に肉薄した支援でした。

市が提供できる統計資料の中で、マーケティングに活用できるようなエリア別のデータにはどのようなものがあるのか？ また、企業規模別に整理された売上、その伸びとシェアの変化、求人数などの統計はあるのか、教えてください。

<回答骨子>

- ・ 「事業所・従業員統計」・・・業種別の事業所・従業員数を公称町までの単位で記載
- ・ 「商業統計」・・・卸売業及び小売業の、事業所・従業員数・販売額を公称町までの単位で記載
- ・ 「福岡市の人口」・・・人口を公称町までの単位で提供可能
- ・ これらは市のホームページからも利用可能

[回答]

- ・ 経営・下請・金融・返済のそれぞれの専門相談員が、相談者の実情に応じて創業から経営まで総合的に支援をしている。市場データについては、市統計課の町別人口等の資料の活用が考えられる。また、特に現場などでのアドバイスが必要な場合や、インキュベート入居企業等に対して、専門家を派遣している。
- ・ 実際の成果としては、資金繰り支援により、経営が改善されたり、創業に至った例などのほか、専門家派遣による経営支援アドバイスと商談会等の支援策が連動することで、販路拡大につながった例もある。
- ・ インキュベート事業では、専門家の適切なアドバイスや企業マッチングなどの支援が受注に結びつき、事業の継続、拡大が進んでいる。
- ・ 創業者応援団事業では、相談会やステップアップ助成事業を通じて、応援団メンバーから経営戦略や課題解決のアドバイス、ハンズオン支援を受けており、販路の開拓や売り上げアップが実現している。

すでに個別企業支援をやっていますが、その成果はどの様になっていますか？ どのようなコンサルティングを行っていますか？ 市場データはどのようなモノを使っていますか？ コンサルティングの実態と成果を教えてください。



リトルトン市にてエコノミックガーデニング政策についてのヒアリング

(問) 会議のテーマは何？

<回答骨子>

・ナレッジ・リージョンズ(知識経済地域)をメインテーマに、加盟都市・地域の取り組み等の意見交換・議論を行なう。

(問) 今後の展開で考えている事業にはどのようなモノがあるか？

<回答骨子>

・今後とも、同協議会に参加し、経済振興策に活かすとともに、福岡市の認知度・理解度の向上、ネットワーク構築を図っていききたい。

(問) 加盟している都市の中で特に連携の可能性がある都市はどこだと考えているか？

<回答骨子>

・シアトルとは、既に覚書を締結しており、今後の可能性があると考えている。

(問) そして、どのような連携策が展開できると考えているか？

<回答骨子>

・例えば、IT分野などに関するビジネス交流の促進などが考えられる。

<回答骨子>

・共同事業については把握していないが、ヨーロッパの都市においては、個別の情報交換などの連携もあると聞いている。

(問) 行政レベル、専門家レベルでの交流の実態はどのようなモノになっているか？

<回答骨子>

・行政などの公的機関における交流として情報交換や参考事例の紹介、今後のビジネス交流の可能性検討が実施されており、それ以外にも、大学間の連携なども検討されている。

(問) シアトルとは経済交流促進の覚書を結んでいるそうだが、その具体的な内容は？

<回答骨子>

・投資や貿易の促進、産業の発展等のための経済交流の覚書を締結している。

(問) 加盟都市の一つである韓国デジョン(大田)市が福岡に通商事務所をつくっているのはベンチマーク協議会の成果の一つであると思うが、その動機はどのようなモノだと考えているのか？

<回答骨子>

・福岡・九州との地理的近接性や産業の類似性、経済規模等により、福岡・九州に関心を持たれ、事務所を開設されたと聞いている。

(問) すでにデジョン事務所と行なっている事業があれば教えてほしい。

<回答骨子>

・デジョン事務所では、ネットワーク、広報、商談会開催等の事業を行なっており、助言などの側面的な支援を行っている。

●ベンチマーク協議会

来年度、福岡市、シアトル、バルセロナなど世界10都市が加盟する「国際地域ベンチマーク協議会」の会議が、本市で開催されるとのことで、その会議テーマは何ですか？ 今後の展開で考えている事業にはどのようなモノがありますか？ 加盟している都市の中で特に連携の可能性のある都市はどこだと考えますか？ どのような連携策が展開できると考えているか、教えてください。



HP：国際知識経済都市会議

URL:<http://asiabiz.city.fukuoka.jp/IRBC2010/index.php/news/>

福岡以外のメンバー都市で始まっている共同事業は何かありますか？ 行政レベル、専門家レベルでの交流実態はどのような様になっていますか？ シアトルとは経済交流の覚え書きを結んでいるそうですが、その具体的な内容はどのようなものですか？ 加盟都市の一つ、デジョン(大田)が福岡に通商事務所をつくっています。その動機はどのようなモノだと考えますか、また、すでにデジョン事務所と行っている事業があれば、教えてください。



HP：大田広域市－ Wikipedia

URL：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%94%B0%E5%BA%83%E5%9F%9F%E5%B8%82>

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて質問いたします。

3. 提案します

■野芥駅周辺のまちづくり

- ・野芥駅周辺のまちづくりについてのお尋ねでございますが、地域交流センターの来年度の進め方につきましては、地域の皆さま方の期待が大変大きいことを踏まえ、今後は、野芥地区エリアで幅広く調査し、早急に整備用地を確定できるようしっかり取り組んでまいります。
- ・また、整備用地が決まりましたら、次の段階として、既存の地域交流センターの機能を基本に、地域からの意見や要望もお聞きしながら、導入する機能や規模を検討してまいります。
- ・野芥口交差点周辺において、地域の方々が広場的な空間を創出し、まちづくりや地域の活性化に取り組むことは、意義あることである。
- ・そのためには、広場の在り方や活用方策を検討されることが必要であり、地域の取り組みと併せ、行政としても、地区計画制度等の活用等による支援を行う。
- ・初動期は、「出前講座」や「まちづくりアドバイザー」の派遣等を行い、自立的なまちづくり組織の設立に向けた取り組みやまちづくりの検討活動を支援する
- ・まちづくり協議会などの組織が設立され、計画づくりに取り組まれる段階では、コンサルタント派遣や活動費の一部を助成し、地域の持続的な活動を支援していく。
- ・新基本計画では、「地下鉄3号線や外環状道路などの整備を契機に、交通結節機能の強化や地域交流センターの整備、商業機能の充実をめざす」と示されている。
- ・七隈線沿線まちづくりでは、「駅周辺を一体的に開発を強化し、都市機能更新、生活環境改善、交通結節機能の強化を重点的に進めるべき地区」と位置づけている。
- ・今後とも、地域交流センターの検討とも連携しながら、拠点機能の充実に努める。

●早良区地域交流センターの今後の展開。

まず、地域交流センターについてです。地権者と交渉したが、うまく行っていないというのは、ただやったという弁明にすぎません。地域の方々は、コミュニティ活動や文化活動などの拠点となる地域交流センターが出来ることを長く待ち続け、それが出来ることによって、周辺には賑わいも生まれ、地域が活性化する、と大いに期待しています。

来年度も同様の予算をつけるようですが、来年度はどう進めて、どこまで成果を出すと考えているのか、教えてください。

●野芥周辺の地域拠点整備、地下鉄沿線の都市（まち）づくりに関する実態と今後。

私は、平成20年9月に、地下鉄野芥駅を中心とした国道263号線の一定区間での道路拡幅、「辻づくり」について提案しました。野芥口交差点は、2つの国道が交差し、地下鉄野芥駅も、高速道路ランプもあり、早良区中南部の拠点です。三ツ瀬ループ橋を通して佐賀からの交通が集まり、外環状道路も東側が4車線化され、ますます交通が集中すると予測します。

一層の交通混雑が進む野芥駅周辺において、国道263号線の道路拡幅により、地域拠点にふさわしいお祭り広場としての「辻づくり」、その可能性をどう考えているのか、教えてください。

先程の答弁では、まちづくりには、地域が主体的に取り組むことが必要とのことでした。野芥駅周辺でまちづくり期成会などの組織を地元で結成し、取り組むとしたら、どのような支援があるのか、教えてください。

野芥駅周辺は、基本計画では「地域拠点」、七隈線沿線まちづくりでは「開発推進地区」、と位置づけられていますが、どのようなビジョンに向かうと示しているのか、また、そのビジョンの実現に向けてどのように取り組んでいくのか、教えてください。

■特色のある港づくり

- ・博多港では、クルーズ関連産業を育てていくことが大切であり、その前提としてクルーズ客船寄港の定着化が必要になってくると思うが、定着化のための方策は。
- ・2010年の外国クルーズ客船の博多港寄港予定は増加傾向ではあるが、これを一過性のものとせず、来年で降も寄港していただき定着化させることが重要であると考えている。そのため、平成22年度から外国クルーズ客船の寄港について外航定期船と同等のインセンティブを導入し、入港料及び岸壁使用料を減免する。こうした取り組みが定着化の支援になると考えている。
- ・上海 RORO 船の定着化のために何が必要か？（週複数便化を図るための方策）
- ・上海 RORO 船は中国と日本を28時間で結ぶユニークな物流手段であり、関東関西など博多港背後圏以外にも新規貨物を開拓してきているものの、週2便体制であるため貨物量を着実に伸ばすには至っていない。今後は厳しい市場環境の中、2隻・週4便体制について検討を行い、新規開拓に向けて更にPR活動を行っていきと聞いている。
- ・今のJRの仕組みを支援することに対する所見
- ・九州運輸局を中心とした「北部九州国際物流戦略チーム」が2008年から12フィートコンテナ普及拡大に向けた検討を続けており、本市としても協力を行いながらその検討を進めたい。

●旅客船都市化

○旅客ビジネス定着

特色のある港づくりについてです。急激に伸びているクルーズ船の寄港を増やし、東アジアの旅客都市化をめざす。クルーズ船の定着化を図るために、どのような方策を考えているのか、教えてください。

●上海ローロー船の機能強化：上海スーパーエクスプレスの定期便化

博多港RORO船の取り扱い貨物は、下関港の2倍に近かった。しかし、下関港はRORO船を週2便にしたために、昨年12月の月間取扱量は、従来の7割増となっているとのことです。負けられない。そのためにも、性能の高い船を導入し、週複数便化を図り、将来的には毎日走る定期便化を実現すべきです。どのような方策で、そのように進んでいくことを支援していくのか、教えてください。

上海RORO船は、12フィートコンテナを使うことが大きな特色です。そのノウハウを中国へ普及する。そうするとさらに博多港を通して荷が動くようになる。さらに、この特殊コンテナに関連する様々な仕事の張り付きも期待されます。今のこの仕組みを支援することに対する考えを、教えてください。

■環境を重視した森林づくりについて

- Q1 荒廃森林の整備計画は？
- ・荒廃森林再生事業により整備する。(年150ha)
- Q2 新たな荒廃森林がでてこないための方策は？
- ・荒廃森林再生事業により整備する。(年150ha)
 - ・林道や作業道の整備や集約化による低コスト化を図る。
 - ・針広混交林化など多様で健全な森林整備に取り組む
 - ・国で検討されている木材利用の拡大に向けた制度を注視していく。

森林づくりに関しては、人工林であれば、造林、枝打ち、間伐等の費用がかかるが、木材価格が低迷して回収できない。言葉を換えると、人工林には林業従事者による手入れは期待できないということです。その結果、管理されていない森林が全森林面積の1/4以上、3,130haになっている。これらを放置し、増やし続けるのではなく、森林を保全するための施策が必要です。荒廃した森林の整備計画はどの様になっているか？ あらたに荒廃森林を生じさせないための方策として、どのようなことを考えているか、教えてください。

国における国産材の自給率50パーセント以上を目標とする「森林・林業再生プラン」に基づく施策や検討を踏まえつつ、針広混交林化などを含め、森林が有する環境保全などの公益的かつ多面的機能を果たすとともに、持続可能な林業の土台づくりを推進するための施策を検討していく。

(福岡市農林業総合計画＝24N～28N)

むかし、里山は地元共有の財産として管理されていたが、近年は放置され、必ずしも美しい景観と言えない状態です。杉や桧の人工林は、枝打ちや間伐などを適切に実施しなければ、荒れてしまう。しかし、特定の広葉樹は、ある程度成長すれば管理が不要だと聞いています。長期的な視点に立ち、人工林として整備し管理する面積など、将来の安定した森林へ向かうための目標値を設定すべきではないでしょうか。山林所有者が自ら管理できないならば、人工林から広葉樹への変換や、里山の整備などを進める。環境保全を重視した今後の森林のあり方を検討すべきです。考えを教えてください。

■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり

(経済振興局)

【回答骨子案】

- 農商工連携は、地場中小企業にとって、新たな事業展開などビジネスの広がりが期待できる。このため、農との連携を行おうとする中小企業には、経営相談や経営専門家の派遣などの事業を活用して支援する。

(農林水産局)

- 平成22年度は、新規事業である「伝統野菜復活支援事業」により、「かつお菜」など博多の伝統野菜を使用し、販路の全国展開を目指す新商品の開発や販売促進の支援に取り組む。(1社 事業費の3分の1以下、800千円を限度に助成)
- また、新規事業である「農商工連携推進事業」により、農協や経済振興局所管の「福岡市コミュニティビジネス販路拡大支援センター」などと連携し、市内産農産物や規格外野菜を使用した新商品の研究・開発や販路拡大の支援に取り組み、地域経済の活性化を目指す。



天神新天町 写真提供：福岡市

<回答骨子>

- ・ それぞれの地域が持つ特性を活かし、消費者や地域住民の要望や期待に応えることが重要。
- ・ 商店街の活性化のためには、商店街が自ら発意・企画し、自主的に活性化に取り組むことが必要であると考えており、ご指摘の点を含めた商店街の自主的な取組みに対して、商店街活力アップ支援事業により積極的な支援に努める。

●農商工連携事業

農商工連携での特産品開発支援事業は、まだ自立した企業活動には至っていません。販売額で市内卸売業の1割弱を占める農畜水産物卸売業、従業者数で市内小売業の40%を占める飲食料品小売業、事業所数で市内全産業の15%を占める飲食業など、福岡市に集積する農林水産物に係わる仕事場は強大です。それを生かす。全国への販売も視野に入れ、農作物の栽培(農業)、から加工(工業)、販売・流通(商業)、までの農商工が連携した展開が必要です。中小企業の支援の観点からこのような取り組みをどう考えているのか、教えてください。また、新年度において、農商工連携にどう取り組むのか、教えてください。

●商店街振興：特色のある商店街づくりへ企画・支援策を。

今年度の調査によると、商店街の実体はまだまだ厳しく、積極的な対応が必要です。

一方、ヨーロッパの雑誌モノクルで「買い物世界一」とランキングされた福岡市は、また、いま書店で売っているマガジンハウス発刊の雑誌「ブルータス」で、「クールな街」日本一にランキングされ、主にお店が紹介されています。この評価の高いお店の集積をさらに伸ばし、さまざまな特色のあるエリアとして、店舗を集積させる。特定地域内にある複数のお店で特色ある地域づくり事業コンペなど、これまでの商店街に限定することなしに、エリアとして、特色ある店舗集積地域を振興する。そのような視点で、商業振興策をまとめていただきたい。お考えを、教えてください。

[回答]

- ・本市の専門家派遣・診断助言事業においては、中小企業診断士、社会保険労務士など様々な資格を持った専門家・約140人が登録されており、各企業の実情に応じて適当な専門家を選定し、現場に派遣し経営支援アドバイスを実施している。
- ・データについては、必要に応じて、市統計課で集計した人口統計や事業所統計などのほか、公的機関等が公表している資料等を参考としているが、実績は少ないのが現状である。
- ・また、民間のコンサルタント会社は約350社（電話帳による）あり、それぞれ各社の経験とデータを基に経営コンサルト業務が実施されているものと考えている。

<回答骨子>

- ・ベンチマーク協議会において形成した関係を活かしながら、個別都市・地域のネットワーク強化可能性を検討し、中長期的な視点でビジネス交流の促進等を図り、福岡市の国際競争力を高めていきたい。

<回答骨子>

- ・国際的な対応、業務を行える人材の育成は、重要なテーマだと認識している。

●データとマーケティングをつかった個別コンサルティング

私もコンサルティングの仕事をしていました。いつも大半の時間を使い、障害として立ちはだかっていたのは、実態を知るためのデータの入手でした。一応データはあるけれども、的確にアドバイスするためにはこんなデータが欲しい、と思ってもそれがないことがしばしば、でした。経営診断士などをお願いして、個別企業にコンサルティングを行っているとのことですが、経営アドバイスを専門家の福岡での実態はどうなっているのか？ どの様な資格で、どの様なデータに基づいてコンサルティングをおこなっているか、教えてください。

●ベンチマーク協議会

○ベンチマーク協議会参加都市との連携策

ベンチマーク協議会のことをお伺いすると、何か生まれてきそうな予感がしてきます。ベンチマーク協議会のなかで、都市の規模、性格などが近い都市と連帯して都市戦略をつくってはどうかでしょう。例えば、都市間F T A、都市間取引にさまざまな優遇策を適用するなど。絡めて、少し前の上海、昔の博多のように、お互いの都市に福岡街区、バルセロナ街区などをつくり、居住や旅行に関しても優遇措置を開発するなど、考えると面白い。

しかし、まずは、都市間連携のため、きちんと相手都市の実情に精通し、具体的な共同事業を相手都市の人とともに進めることができる人材を育てることが重要です。その結果、福岡ならではの専門家を仕事の形で定着させることもできる。外国語の勉強ではなく、一緒に事業を進める作業のなかでの人材育成です。具体的な連携についてと、人材育成に関してお考えを、教えてください。

以上で2問目を終わります。

4. これからを展望

■野芥駅周辺のまちづくり

【答弁骨子】

- ・商店街のにぎわいと魅力づくりに向けた取組みや地域の要望や期待に応える商店街を目指した活動への支援施策を充実し、支援施策の積極的な活用推進に努める。
- ・また、支援に当たっては、関係局との連携を図る。

基本計画で「地域拠点」に位置づけられている野芥駅周辺で、整備すべき「インフラ」は道路拡幅であり、作るべき「制度」は市街地更新のための税緩和や容積ボーナスなどのインセンティブです。さらに、基本計画での、「地域拠点」野芥の「位置づけとまちづくりの方向性」には、はっきりと「商業機能の充実をめざす」とあります。農林業の集積している早良区南部地域の振興と絡め、農商工連携の拠点としての計画が必要です。商店街振興の視点から振興策をどのように考えられるのか、教えてください。

■特色のある港づくり

特色のある港づくりについてです。視察で訪れたサンフランシスコの港にあって博多港にないモノを考えると、路上芸人、歩道上の露店、海にちなんだミュージアム、マリングッズを売る店、派手な観光バスやケーブルカーなどの楽しい乗り物でした。旅客都市、福岡でもこんな仕事が育たないでしょうか？ 楽しい水辺を演出する仕事に、チャレンジできるインフラ整備、規制緩和などを検討すべきです。

■環境を重視した森林づくりについて

次に、森から始まる“循環する”仕事の“連なり”づくりです。炭焼きを振興して、森林を伐採し、焼き畑をつくり、そこでソバ、麦、あわ、ヒエなどの穀物を栽培する。観光も視野に入れ、とれた穀物を水車で製粉し、麺・パン・お菓子などをつくる。山里に人気のお店ができてくる。こんな手作りで、安心高付加価値の、食の仕事連鎖をつくる。森林を管理しながら一連の仕事群をつくる。それは農林水産業の生産基地、九州にもつながる仕事場づくりだと思います。

■経済データを充実させ、局を越えた経済競争力づくり

「インフラ」としてのデータベースづくりについてです。福岡市のエリア実体が分かる様々なデータベースを使えば、市民も、企業も活動が競争力を持ってくる。図書館で何万冊という本が無料で借りられるように、市民であれば、生活に、仕事に、事業に有効に使える様々なデータベースを無料に近い形で使うことができる。このような「データインフラ」ができれば、福岡市における事業・投資リスクをより高い精度で覚悟できるようになる。その結果、外部からの投資も「データインフラ」を持たない都市より、たくさん呼び込むことができるようになります。まずは、いろんなデータベースと公的に契約し、市民に安く使える仕組みを検討すべきだと思います。

●知の経済地域

昨年視察で、アスペン、サンタフェの学術・文化を使った地域振興の現場を見てきました。どちらの都市も学術・文化をベースに複雑系、哲学・文化など最先端のテーマを取り扱う研究所をベースに、世界が注目する研究、会議などを展開し、居住地として、観光地として魅力的な環境をつくりだしていました。

九州大学が、「数学を産業に！」のかけ声で、来年スタートさせる「産業数学研究所」、昨年始まったバングラディッシュのグラミン銀行とのビジネス開発など、研究開発プロジェクトは、経済振興につながるものです。文化・学術活動にはプラスの経済波及効果がある。きちんと制度設計をすれば、税を使って支援することに経済合理性を見いだすことができる分野なのです。

●福岡ならではの

福岡市のアジア美術館、アジア文化賞、アジア・フォーカス映画祭、ミュージックシティ天神など、国際的・文化的事業、それを経済化できないでしょうか？ 担当局はバラバラです。局を越えねば仕事場として定着できない。当面は大きな数の雇用ではないけど、福岡らしい、特殊な仕事場を確かなものとしていく。

「国際地域ベンチマーク協議会」の「ナレッジ・リージョンズ（知識経済地域）会議」、その開催を契機に、福岡ならではの学術・文化の分野で、専門的なしごとを意識してつくっていく。そのストーリーをまず、創りあげていただきたい。「知識経済」振興を、局を越えてやる。局を束ねるためにも、民間に推進役として責任と予算を持ってもらって参加していただく。

大量の雇用に繋がるかどうかはわからなくても、少ない仕事場かもしれないけど、他の都市にはない、ユニークなしごと場づくりをやる。視察で訪れたシリコンバレーは、いま世界の最先端産業がうごめいていました。しかし、120年前には牧場の中にスタンフォード大学だけしかなかった。インターネットビジネスはその学生が15年ほど前に始めた。ヤフーもグーグルも。先端かどうかは後から歴史が決めることです。恐れず、新しいことは先に挑戦してやったところが、制します。市長のご所見をお伺いして、私の質問を終わります。



アジア太平洋フェスティバル会場

写真提供：福岡市

